

◎ 月一報恩講（寺子屋サロン）：13時30分～15時
開催日は28日に固定し（土日なら直前の金曜日に変更）、
親鸞聖人の御命日にちなみ「月一報恩講」と呼ぶことにします。

10/28（月）仏具のお磨き

11/28（木）住職が東本願寺に出講するのでお休み
12/20（金）年末なので1週間早めます。

◎ 死別の分かちあいの集い：13時～15時

・夫を亡くした方：毎月第1土曜日（11/2・12/7・1/4・2/1）
・自死遺族の方：毎月最終土曜日（10/26・11/30・12/28）

◎ 整体教室・寺ヨガ教室・よろづ相談会

毎月開催していますが、日にちや曜日を固定していないので、
お寺の掲示板をご覧いただくな、お寺までお問い合わせください。

◇ 寺院護持費（墓地管理費）について
例年 この時期はお納めいただいた多く方が多く、玄関が
混み合います。お振り込みもどうぞご利用ください。
【ゆうちょ銀行】15190-55770601】

他金融機関からゆうちょ銀行へ振り込まれる際は、
次のように入力してください。
【名義】チヨウカクジ
【店名】五一バ（読み ゴイチハチ）
【店番】518（普通預金）5577060

◇ 報告・連絡・“僧”談

12月に脊柱管狭窄症の手術を予定していましたが、痛み止めが効か
なくなり、急遽10月10日に手術しました。入院中の御葬式や御法事は
他のお寺に代行いただきましたが、御当家の方々にはご迷惑をお掛け
いたしました。しばらくはコルセットを着けているので、読経や作法等が
ぎこちなくなるかもしれませんが、ご容赦いただければと思います。
発行人：超覚寺住職 稲隆恩（和田隆彦）（*—人）合掌

2024年11月報恩講 超覚寺報 第64号

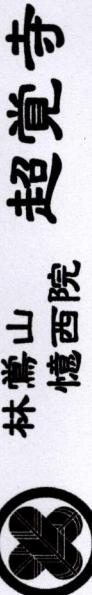
【ハーフ屈たより】



Nihon Hidankyo

"for its efforts to achieve a world free of nuclear weapons
and for demonstrating through witness testimony
that nuclear weapons must never be used again"

THE NORWEGIAN NOBEL COMMITTEE



浄土真宗（真宗大谷派・東本願寺）

林鷲山憶西院 超覚寺

RIN-O-ZAN OKU-ZEI-IN CHO-KAKU-JI

[since 12月 2162, 西暦1619, 元和5]
〒730-0013 広島県広島市中区八丁堀 5-2

Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113

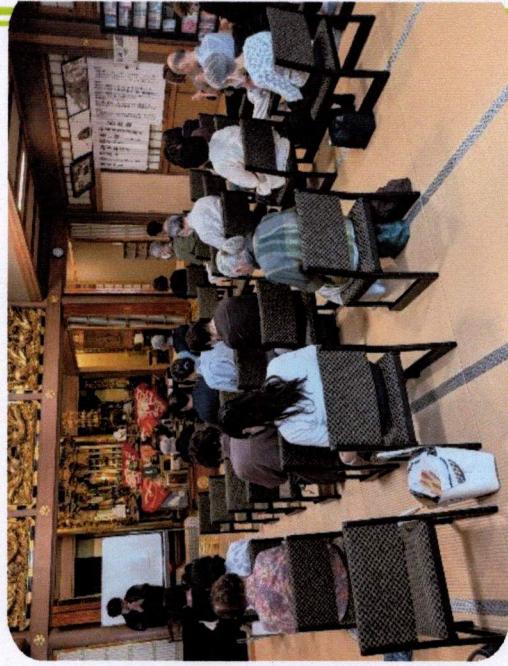
Mail : wada@namuamidabutsu.com

HP : <http://www.namuamidabutsu.com>
<http://mytera.jp/tera/48chokakuji>

超覚寺 冬の行事のお知らせ

◇ “寺”後報告・9月21日(土)【秋季彼岸会】

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりますこと、ありがとうございます。
さて、下記の通り法要・法座を勤修いたしますので、ご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。<(_ _)>



今年の秋季彼岸会も瓜生崇氏をお迎えして無事厳修いたしました。雨天の予報でしたが24名がお参りされました。

今回、瓜生先生は法然上人のご生涯をお話しくださいました。親鸞聖人と出会うまでの法然上人の人生は私もほとんど知らず、「聖」ではない法然上人的一面も知れて、親しみを感じることができました。最前列にお座りの総代さんが、瓜生先生の話を先取つてしまふのを先生が「ちょっと黙つと聞いてください」というのが妙に可笑しかったです。

◎ ノーベル平和賞

2024年のノーベル平和賞に日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協・被爆者の全国組織)が決まりました。非人道的な原水爆被害を世界へ告発し、「ふたたび被爆者をつくるな」と核兵器廃絶を訴え続けてきた運動が高く評価されました。ロシアのプーチン大統領が核兵器の使用条件の変更を提案して核兵器の使用を示唆し、イスラエルの閣僚が核兵器使用に言及する今だからこそ、日本被団協へのノーベル平和賞は意義がある授与だと思います。

50年前の佐藤栄作首相への平和賞が非核三原則が対象だったことと併せて、日本の立ち位置を考える機会にしなければなりません。平和運動は政治的課題と思われていますが、いのちを蹂躪する核戦争は、特に仏教が関わらねばならない宗教的課題でもあります。

◎ 報恩講法要 11月16日(土)



| 3時30分 ~ 勤行:市内寺院住職
| 4時30分 ~ 15時30分頃

法話・歌唱: 大西貴浩師
(真宗大谷派僧侶・声楽家)

大西貴浩先生は、上智大学文学部社会学科を卒業後、一般企業での勤務を経て、日本オペラ協会オペラ歌手育成部第31期修了。藤原歌劇団員を経て、現在フリーで活動されています。

昨年大好評でしたので今年もお願いしました。また仏教讀歌を歌唱いただきますが、他にリクエストも受け付けてくださるので、どうぞ超覚寺までご連絡ください。現時点では「千の風になつて」と「瑠璃色の地球」がリクエストされています。

今年は午後だけの法座になりますが、お齋はいつも通りにご用意しております。晚御飯の心配をせずに法座に専念いただければと…。

◎ 2025年修正会法要

1月1日(水・祝) 6時~、8時~、10時~、12時~、
一年の計は元旦にあり。「今年もお念仏の道を歩ませて頂きます」と阿弥陀如来にご挨拶申し上げましょう。住職が約10分ほど勤行。法話を勤めますので、新年どうぞ本堂までお参りください。
門松や冥土の旅の一里塚めでたくもありめでたくもなし(一休禪師)

☆ 報恩講とは

浄土真宗の門徒（御同朋・御同行）が勤める1年で最も大きな仏事です。京都の東本願寺（真宗本廟）では毎年1月21日から28日まで勤められ、全国の真宗大谷派の別院や寺院でも年に一度、日時を定めて勤められています。

“報恩講とは何が”を知るキーワードに「1月28日」があります。宗祖親鸞聖人は1262（弘長2）年1月28日に90歳のご生涯を終えられました。親鸞聖人が亡くなられた祥月命日に仏法を聴く集いを開いて、自らの信仰を確かめ学び直そうという人たちが集まりました。この集いを「講」といいます。その源を訪ねれば、親鸞聖人自身が師・法然上人のご命日に人々と寄り合ひ、お勤めをし、法話を聴き語り合つておられたことにあります。超覚寺でも『月一報恩講』と称して毎月開催しております。

第2のキーワードは「報恩」です。恩に報いる、恩を報らせるとも読めます。私たちが生きていく上には、親の恩や師の恩など様々なご恩があります。報恩講の「恩」は、私たちを救つてくださる仏さま（如來大悲）、そして私たちに先だって生きていかれた方々（師主知識）のお勤めによって念仏の教えに遇い、一人ひとりが生きる依り処を教えていただいたご恩のことです。そのご恩に報いる・報せるとは、唯お念佛を称えることです。阿弥陀如来と親鸞聖人に恩返しし、他の御同朋・御同行に恩送りすることが、報恩講という仏事には託されているのです。

その報恩講は、人々が寄り合い、お齋をいただきなど、共に聞法する場として、今日まで脈々と勤められています。さて、コロナ禍の後、どのような形態が良いのか？ 今年は午後に開催しますが、試行錯誤しながら、多くの方方がお参りましただけける報恩講を目指して、お勤めさせていただきます。

◎ お寺こそこそ話

お寺の僧侶がどんな車に乗っているのか、パトロールしている人がいるそうです。隠しガレージまで把握していて、その人曰く、「住職は軽自動車がベスト、普通車も3,000CCまで」が望ましいとのこと。拙寺も前住職がゴルフに乗っていた頃、見知らぬお年寄りに「お坊さんは外車になんか乗つたらあかんよ」と言わされたことがありますから、車は僧侶を量る尺度になつていて、読経や布教だけではなく悲嘆に寄り添えるかどうかも僧侶の大切な能力ですが、外車に乗つていたら相談されないような気がするので、確かに車選びは尺度になつているよう…。 東京出身のある龍谷大学生は、フェアレディZに乗つていたのが夏休み明けにベンツに変わつたらしく、ご門徒さんからショボい車に乗つてお参りされたら困るので良い車に乗つて欲しいと言われたからだそうです。地域によって受け止め方は様々ですね。

これも広島県外の話ですが、「三流布教使が来たとご門徒さんに思われてしまうので軽自動車では来ないでほしい」と言われた僧侶もいました。『軽自動車 = 三流布教使』って構図は、我々が「僧侶が高級車に乗つてはいけない」と考えて考えているのと表裏一体で、その人物をどうしても外見で判断してしまうことの証左です。

法衣や袈裟も値段はピンキリで、それで僧侶の格を量る向きもありまます。淨土真宗ではそのような欲や見栄も否定しませんが、ご門徒をテに己の欲求を満たすのもどうかと…、仮にご門徒にそう言われたとしても、そこをちゃんと仏法に照らして話すのが僧侶の本分だと思います。外車や高級車にはそれなりの経済力が必要ですから、世間が賛沢と見るのは仕方ありません。その上で、どういう生き方を選ぶか、僧侶なら御布施で生かされているという自覚があるか、が問われる気がします。持ち物や外見で僧侶もある程度判断されてしまうなら、僧侶としての信頼を損なわないように、やはり私は軽自動車かマツダ車を乗り続けたいと思います。